

4 衛生科学班

衛生科学班では、市民に身近な2つの市施策に寄与する検査を行っています。

「食の安全・安心の確保」について、表11のとおり小・中学校の給食で使用される食材の放射性物質検査を実施し、検査を通して市民の健康推進に貢献しています。

また、「生活衛生対策の推進」については、公衆浴場等の水質検査を行い公衆衛生の面からも上質な生活都市の実現に貢献しています。

令和2年度は、衛生関係検査の依頼元である保健所の業務が逼迫したことや、新型コロナウイルス感染症検査実施に人員等を集中したことにより、定例的な食品衛生及び環境衛生関係業務の一部についてやむを得ず中止・縮小しました。

表11 検体種別の検査件数

種 類		検体数	項目数	検体の種類
食 品	残留農薬検査	0	0	野菜・果実 等
	食品添加物検査	0	0	油、魚肉練り製品、食肉製品、漬物 等
	乳規格検査	0	0	アイスクリーム 等
	重金属、有害物質検査	0	0	あん類
	放射性物質検査	69	69	野菜、果実 等
	食中毒等の検査	0	0	有毒食品 等
計		69	69	
生 活 衛 生	公衆浴場の浴槽水検査	23	92	
	プール水検査	0	0	
	飲用水検査	22	110	飲用井戸水、飲用温泉水
	家庭用品検査	0	0	衣類
	器具・容器包装検査	0	0	皿、椀
計		45	202	
その他		1	1	分析の精度管理
合 計		115	272	

(1) 食品の理化学検査

学校給食を運営する教育委員会健康教育課からの依頼により、食品に関する放射性物質の検査を 69 検体 69 項目行いました。

ア 放射性物質検査

福島第一原子力発電所事故後、継続的に放射性セシウムのスクリーニング検査を行っています。

現状、教育委員会健康教育課の依頼により、国の原子力対策本部が平成 31 年 3 月改正の「検査計画、出荷制限等の品目・区域の 設定・解除の考え方」を準用し、放射性物質検査対象地域 1 都 16 県から出荷された学校給食用食材を対象に使用前の検査を実施しています。

令和 2 年度は、表 12 のとおり 69 検体 69 項目の測定を行い検出されたものではありませんでした。

表 12 放射性物質スクリーニング検査の経年実績

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
検体数	71	213	150	145	88	88	93	80	69

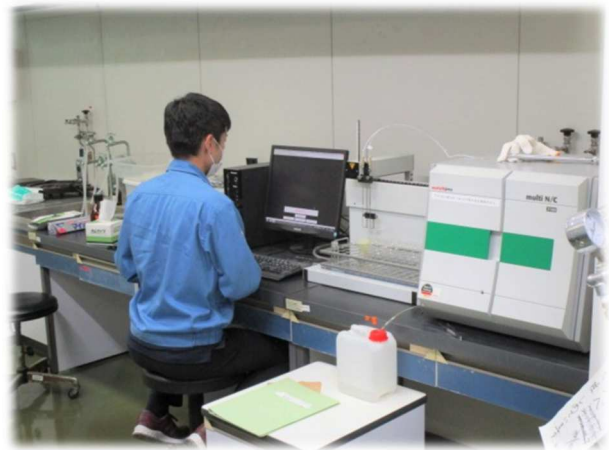
(2) 生活衛生の理化学検査

保健所（生活衛生課）の依頼により、公衆浴場や飲用井戸水など市民生活に身近な衛生の検査を合計 45 検体 202 項目行いました。検査種類ごとの結果については以下のとおりです。

ア 浴槽水の水質検査

公衆浴場やスポーツクラブに設置されている浴槽について、23 検体 92 項目の水質検査を実施しました。

結果、検査対象のうち 1 検体で TOC（有機性汚濁の指標）の基準超過を確認しました。



(3) その他（分析の精度管理）

分析に関する技能を客観的に評価し正確性を維持するため、原因不明の健康危機事案を想定した毒性物質の検査模擬訓練に参加し、迅速かつ正確に未知物質の検査を完了しております。

